



「ゼロカーボンシティ旭川」

～ 2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して ～

近年、地球温暖化が原因とされる平均気温の上昇、大雨や台風等による被害、農作物や生態系への影響等が世界各地で観測され、本市においてもその影響と考えられる現象が発生しています。

2015年12月に採択されたパリ協定では、世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べて2℃より十分下回るよう抑えることとともに、1.5℃までに抑える努力を継続することが国際的な目標として掲げられました。

また、2018年に公表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の特別報告書では、気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要とされています。

我が国も、2020年10月に「2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする、すなわちカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しました。

こうした国内外の動向を踏まえ、今直面する地球温暖化の課題に対し、本市としても、再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギーの強化、森林吸収源の最大限の活用など、積極的な対策が求められています。

この地球規模の大きな課題に対し、高い目的意識を持って地球温暖化対策に取り組むことを決意し、今後、「旭川市地球温暖化対策実行計画」を見直す中で、脱炭素社会に向かう本市の姿を位置付けてまいります。

脱炭素と社会が調和しながら取組が進み、安心して暮らせる豊かな地球環境を次の世代に引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ旭川」の実現を目指すことをここに表明します。

令和3年10月22日

旭川市長 今津 寛介